

# 「大戸川ダムが整備されていた場合の治水効果について」のご質問にお答えします

Q1 今回の氾濫シミュレーションと平成19年に公表された氾濫シミュレーションとは条件が違うのですか。

A1

今回と前回の氾濫シミュレーションでは、降雨や河道条件などの条件が異なります。詳しくは以下のとおりです。

- ・平成19年の「大戸川ダム建設事業についての意見交換会」において示した氾濫シミュレーションは、昭和28年台風13号洪水と昭和57年台風10号洪水を対象として、浸水想定区域図を作成する場合の一般的な手法により、計算当時の流域や河道の状況を前提に、大戸川ダムの有無の場合での浸水状況を計算したものです。（下記URL参照）

大戸川ダム工事事務所HP 大戸川ダム工事事務所の取り組み 参照

大戸川ダム建設事業についての意見交換会（平成19年10月30日） P19～P22

[http://www.kkr.mlit.go.jp/daido/think/pdf/071030\\_02.pdf](http://www.kkr.mlit.go.jp/daido/think/pdf/071030_02.pdf)

大戸川ダム工事事務所HP みなさんの疑問にお答えします。質問3-2 参照

[http://www.kkr.mlit.go.jp/daido/gimon/pdf/qa3/qa3\\_2.pdf](http://www.kkr.mlit.go.jp/daido/gimon/pdf/qa3/qa3_2.pdf)

- ・今回の氾濫シミュレーションは、平成25年台風18号洪水を対象として、今次洪水で幸いにも堤防が破堤しなかったという事実に鑑み、より今回洪水の実態に則したものとするために、破堤を考慮せずに、現時点の流域や河道の状況で大戸川ダムが整備されていた場合の浸水状況を計算したものです。

Q2 平成20年12月19日に滋賀県議会の琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会で、滋賀県から示された資料において、国の氾濫シミュレーション結果では石居橋上流左岸については「依然として氾濫が残る」としているのに、今回のダムの効果のシミュレーションではこの箇所を除いたのはなぜですか。

A2 石居橋上流左岸の支川（古川）流入部は過去から浸水被害が生じやすい箇所となっていますが、この箇所の被害については、樋門等の設置による対策がされていないことが主な要因であることが明らかであることから、今回のダムの効果の試算には用いていません。

琵琶湖淀川水系問題対策特別委員会（平成20年12月19日） 参考資料 P20参照

<http://www.pref.shiga.lg.jp/h/chisui/files/shigakenkangaekata201219.pdf>

Q3 今回の洪水では、石居橋上流左岸の支川（古川）流入部でどの程度の浸水被害が発生したのですか。

A3 石居橋上流左岸の支川（古川）流入部における支川への逆流等による浸水面積は、当事務所による現地の痕跡調査の結果から約40haと推定されます。  
また、当事務所による現地の痕跡調査及び、大津市への罹災証明の申請状況の確認結果から浸水家屋は0戸であったと推定されます。

Q4 ダムが整備されていれば、浸水面積が9割減少すると推定されると記載していますが、残りの1割は何処ですか。又、それはなぜ浸水するのですか。

A.4 今回の氾濫シミュレーションにおいて、大戸川ダムが整備されていた場合でも大戸川からの越水による浸水被害が解消しないのは、石居（いしすえ）橋上流右岸及び羽栗（はぐり）橋下流右岸の2箇所です。  
大戸川ダムの効果により大戸川の水位は低下しますが、越水の解消にまでは至らない計算となっています。

Q5 大戸川の効果において1枚目に記載されている浸水面積、浸水戸数の対象となる範囲は、大戸川ダム上流の甲賀市信楽町の被害も含まれているのですか。

A5 今回の試算は、大戸川ダムの効果が及ぶダム建設予定地点より下流（綾井橋下流）を対象としています。

Q6 今回のシミュレーションで大戸川ダムが整備されていた場合は、貯水容量は十分あったのですか。

A6 今回の出水では、大戸川ダムの計画上の洪水調節容量2190万 $m^3$ に対して、約1/3程度に相当する670万 $m^3$ を貯留したと計算上想定されます。

Q7 今回の氾濫シミュレーションで用いた河川の地形等はどのように設定したのですか。

A7 今回の氾濫シミュレーションでは、滋賀県より平成22年度の河川の測量成果の提供を受け、これを用いて河川の地形を設定し、また、周辺の地形については近畿地整が平成21年度に測量したレーザープロファイラのデータを用いて設定しています。

Q8 内水氾濫は考慮していますか。

A8 今回の出水では、大戸川本川からの越水により多くの浸水被害が発生したことから、それを対象に大戸川ダム治水効果を試算したものであり、内水氾濫については考慮していません。

Q9 越水や支川への逆流による本川の流量減少は考慮していますか。

A9 河川から越水した流量による河道内の流量減少を考慮しています。  
また、古川への逆流による本川の流量減少及び、越水後の本川への戻り流量を考慮しています。

以 上